社会知性の開発をめざす 専修大学

緑地帯 読書のすすめ

私は今、学会参加のためにオーストリアのメルボルン市に滞在している。南半球への旅行は初めてで、北半球では見えない夜空に浮かぶ大マゼラン雲を見るのを楽しみにしている。雲という呼び名がついているが、地球から17万光年という宇宙の彼方にある小さな銀河である。今見えている大マゼラン雲の光は、17万年前に出発し17万年かけてようやく地球に到達したことになる。気の遠くなるような旅路である。

厚生労働省のまとめによると、昨年の日本人の平均寿命は女性が85.23歳、男性は78.32歳となり、過去最高を更新したそうである。しかし、宇宙という単位で物事を考えた場合、人の人生という時間はほんの一瞬の出来事でしかない。人はこの短い時間にどれだけのことを経験し、学ぶのだろうか。

ここで読書について考えたい。本には著者が費やした時間が凍結されており、読書を通してそれらの時間を共有することができる。多くの本に触れ合うことにより、一生という限られた時間の何倍もの時間を経験するができ、自分の知りえなかった多くの事柄を学ぶことができる。

最近、若者の自分で考える能力の衰えが危惧されている。このことは、若者の活字離れに歯止めがかからない状態と関係があるのかもしれない。読書を通じて、異なる考え方に触れて自分の考えと比較したり、より深く考えたりすることは、思考力を身につける第一歩である。

大学生という自らの時間を自由に使える時期に多くの良書にめぐり合い、自らを磨きあげていってほしい。（学生部）

【ニュース専修8月号8面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

高大連携修了式

今年度から始まった県立川崎高校・生田東高校との高大連携で、前期修了科目の修了式兼中間報告会が7月19日、生田キャンパスで行われた＝写真。聴講生からは「漠然としていた『進学』の意識が高まった」「『考える』ことを意識させられた」などの感想が聞かれ、授業担当教員は「『お手本』を示そうと、本学学生の授業態度も良くなった」と"効果"を話した。

教職を志望するサポーターもこの経験が将来役立つと話し、それぞれ有意義な経験となった。

後期も聴講生の頑張りがキャンパスを活性化させてくれることだろう。

【ニュース専修8月号8面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.